

令和7年度 第3回上田市総合教育会議 会議概要

1 会議名	令和7年度 第3回上田市総合教育会議
2 日時	令和8年1月27日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出席者	土屋陽一上田市長、酒井秀樹教育長、 安達永眞教育委員、木口博文教育委員、萱津公子教育委員、荻野茶々教育委員
5 市側出席者	大矢政策企画部長、池田教育次長ほか別紙名簿のとおり
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和8年2月5日

協 議 事 項 等

1 開 会 (大矢政策企画部長)
2 市長あいさつ (土屋市長)
3 教育長あいさつ (酒井教育長)
4 会議事項
(1) 上田市教育大綱 (改訂案) について
・資料1-1及び資料1-2に沿い、政策企画課長から説明
・以降、協議
(委 員) 3頁の表記の中で、「子どもの利益・権利を～」という表現があるが、権利が認められて初めて利益が守られるので、「権利・利益」の順に変えた方が良いのではないかと。
(事 務 局) こども基本法第三条でも、先に権利について触れてから利益について触れている。権利が守られてから利益という認識のとおりだと考えるため、「権利・利益」の順で統一したい。
(委 員) 今回の改訂で「子ども」と「学校教育」を併記したことで、生まれたばかりの子どもからの部分も包含され、良いものになったと思う。
(委 員) 「はじめに」に書かれている3つの力はとても大事だと思う。 自分が住んでいるまちの現実を受け止め、このまちをどうにかしたいと思ってくれる子どもになってほしい。
(2) 第4期上田市教育支援プラン (案) について
・資料2-1、資料2-2、資料2-3に沿い、学校教育課長から説明
(委 員) 時代の変化で教師の役割が変わってきており、教員の研修等で意識を変えていく必要があると感じている。 今回の改訂で、数値目標も高いレベルに引き上げられておりとても良い。 支援策6「キャリア教育の推進」について、将来どのような職業に就くかにフォーカスされがちだが、10年後には無くなる職業があると言われる中で、どのような人間になりたいか、どんな形で社会に貢献していきたいかを取り上げるキャリア教育も大事だと思う。
(事 務 局) 基本目標において、予測困難な時代の中で児童生徒の「生きる力」を育むといった内容で総括的に掲げているところである。
(委 員) 支援策10でいじめの対応について、素晴らしい内容で書かれている。いじめに関しては、いじめに発展する前に気付けるポイントがあると思うので、子どもの声を聞く等により問題が大きくなる前に相談できるような予防のプランがあると良い。
(事 務 局) 学校内でスクリーニング会議の中で支援が必要なお子さん等の情報共有を図ることとしている。
(委 員) キャリア教育に関連して、地域コミュニティを生かして、学校で地域の人と一緒に働く体験ができたり、学習する時間があると良い。
(事 務 局) 地域との関わりはお子さんたちにとってとても大切なものと認識している。ただ、学

校でどこまで担っていくかという難しい課題もある中で、家庭との連携や地域の皆さんのサポートをいただくことも必要と考えている。

(委員) 学習環境の整備について、子どもにとって相談できるおとなの存在は大きくて、この相談者が変わってしまうと非常に困る。同じ相談者が一つの場所に長く従事したり、相談者同士で引継ぎをしっかりとできるようになると少しでも不登校を減らせるのではないかと。スクールカウンセラーやスタッフたちの立場や環境にも配慮が必要だと思う。

(事務局) 相談できる環境について、相談したいお子さんも様々だと思うので、お子さんの希望も踏まえつつ、相談を受ける職員を一定期間同じ学校に配置したりすることで、継続性を大切にしている状況である。

(市長) 支援策 13 の自然のところで、防災教育の視点の他に、里山に親しむといった視点も追記してはどうか。

(事務局) 検討したい。

(委員) 16 頁の成果目標のところで、「児童生徒が、自己を見つめ」のあとに「他者を理解し」という言葉を入れてはどうか。他者を理解して初めて人との関係においても豊かな心が育まれると思う。

22 頁の成果目標で、多様性を尊重するのであればまずは子どもの意見を聞く必要があると思うので、言葉として入れるかどうか検討してほしい。

また、主な施策の展開の②で、「障がいの有無を含め」という表現ではなく「障がいの有無にかかわらず」という表記の方が分かりやすいのではないかと。同じく②の中で、「保護者(本人)」という表記があるが、本人が括弧書きになっているのは違和感があるため、括弧を外して併記した方が子どもの権利を認めた内容になると思う。

(教育長) 学校現場で児童生徒に配慮して運用している部分を踏まえた表記であるが、本人の表記について、本人の意向を踏まえたうえでというニュアンスで記載できるよう検討したい。

(事務局) 記載内容について工夫したい。

また、他のご指摘についても修正する方向で調整したい。

(委員) プランの中で、市長部局等との連携事業については★印をつけているが、そこだけ特別感が出てしまうので公表する時には留意した方が良いのではないかと。

(事務局) 印の付け方について見直しも考えたい。

(3) 業務量管理・健康確保措置実施計画(以下、実施計画)の策定について

- ・資料 3-1 及び資料 3-2 に沿い、教育総務課長から説明
- ・以降、協議

(委員) 実施計画の最終的な目標とすると、計画の趣旨の最後にある「教育の質の向上」や教育支援プランで新しく加えられた「働き甲斐の向上」につながっていかねばいけないと思う。数値目標を立てて評価することが難しい部分であるので、常にこの最終目標を掴んでいることが大事だと思う。

フォローアップのところで、教育職員の在校時間の把握や各学校の状況把握とあるが、これにより業務の負担になってしまえば本末転倒のため留意いただきたい。

(委員) 実施計画にも働き甲斐の向上についても目標の項目として入れていただきたい。

(教育長) 働き甲斐の感じ方は人それぞれで主観的な尺度でしか調べられないかなと思うところもあり、数値化して見える化するということは課題だと感じている。今回はこの内容で出ささせていただいて、今後、さらに練っていきたい。

(委員) 計画期間はどのように設定しているのか。

(事務局) 国の改正法で設定されている目標年度が令和 11 年度のため、そちらに合わせている。また、計画期間中でも国の方で変更等あれば、途中での見直しも検討する必要があると考えている。

(4) 部活動地域展開について

- ・資料4に沿い、学校教育課長から説明
- ・以降、協議

(委員) 登録団体(見込含め)が多くあり、支援して下さることに感謝する。

部活動は中学生にとってものすごく大きな意味を持っていると思う。地域展開に向かって行く中で、学校側として部活の時間が無くなったことによる子どもへの影響や対応については、何か考えていかなければと思う。

(委員) 指導者に対する報酬や謝礼等についても示す必要があるのではないか。

活動の広報についても、登録団体は市でやってもらえるとなると、宣伝効果も大きいうえで費用もかからないため、通常の団体との間に差が生じると思うので配慮が必要ではないか。

地域資源(人材)の発掘、企業や自治会との連携、地域全体で子どもを育てていく、支えていくという姿勢が必要になってくる。今までは学校の先生に全て頼っていたところを大きく方向転換していく時期になるため、いかに子どもの活動に参加してくれる人を増やしていくかを真剣に考えていく必要がある。

指導者の報酬だけでなく、指導者の育成や資格取得、運営に対する補助も考えていく必要があると思う。

(市長) 既存の部活動が130程度ある中で、現在、登録団体が見込みも含めて54であり、この差にあたる部活動については、夏の大会以降に動きが出るということか。どのように把握していく予定か。

(事務局) 現在、コーディネーターが、学校の顧問の先生とお話をする中で、生徒数の減少で一つの学校では成り立たないところもあるため、今後どのような形で地域でクラブ化していくか相談しながら進めている。

(教育長) コーディネーターが、学校へ説明に伺っており、地域クラブの立ち上げについても学校の先生方の協力もお願いしている。指導者の確保が困難な場合は、他の団体と連携して、令和9年4月にスタートできるよう個別に対応している状況である。

学校側で部活動がなくなることによる子どもたちの気持ちを受け止める体制をどう作っていくか。また、移動手段について交通安全も含めて検討していく必要がある。

中学校の部活動は、憧れる先輩がいて活動に誇りをもつ先輩がいる。その誇りと憧れの文化が中学生期の生徒の心を成長させてきた長所があると考えている。この文化の機会がなくなることが懸念される中、それに代わる憧れと誇りの文化をどう学校の中で作っていくかというのは、大きな課題と考えている。

5 その他

- ・教育大綱及び教育支援プランは、最終調整を行い、市の内部決定の上、3月に公表予定。
- ・実施計画については、改めて教育委員会で協議し決定したい。

6 閉会(大矢政策企画部長)